

# 彦根城とその周辺の自然ウォッチングガイド



## オニバス(彦根市指定天然記念物)

環境省レッドリスト絶滅危惧II類(VU)  
滋賀県レッドデータブック絶滅危惧種

オニバス(*Euryale ferox* Salisb)はスイレン科に属する1属1種の一年生の水生植物です。夏にトゲがある大きな葉が広がり、8月~9月ごろ赤紫色の美しい花が咲きます。絶滅の危機にある大変貴重な植物です。全国的にも自生地が少なくなっていますが、滋賀県で毎年花がみられる自生地はここ彦根城の堀だけです。

入江内湖遺跡調査報告書の縄文時代前期植物遺存体の中に、オニバスの種子があり、オニバスが古い時代からこの辺りで生育していたことがわかります。

平成19年(2007年)から彦根城オニバスプロジェクトが、オニバスの保護や保全をするための活動をしています。ミシシippアカミミガメやアメリカザリガニの被害からオニバスを守り、お堀で生育できるように環境を整えています。彦根市とともに里親制度を立ち上げ彦根市民への普及を進めています。

平成22年(2010年)3月彦根市文化財に指定され彦根市2番目の市指定天然記念物になりました。



## オオトックリイチゴ(彦根市指定天然記念物)

彦根城特産種 滋賀県レッドデータブック要注目種

これほど出会いの不思議を感じさせる植物は他にありません。この植物は、トックリイチゴとナワシロイチゴの自然交雑種と考えられています。

一見、トゲの多い普通の木イチゴに見えますが、この植物は日本の植物学界の2大巨星である牧野富太郎博士と平瀬作五郎先生(イチョウの精子発見者)が深く関わった記念すべき彦根城特産の植物です。牧野富太郎博士が明治27年(1894年)伊吹山植物採集の時に彦根城に立ち寄られ、表御殿(現彦根城博物館)跡で発見、その後滋賀県第一中学校(彦根東高校の前身)在職中の平瀬作五郎の協力の下、果実や花の採集の結果新種であることがわかり、明治35年(1902年)に学名*Rubus Hiraseanus* Makinoと命名し、公表されました。

その後一時姿を消していましたが、昭和51年(1976年)5月に村松七郎氏により発見されて天秤櫓前廊下橋南詰に生き続けています。

平成19年(2007年)1月彦根市文化財に指定され彦根市最初の市指定天然記念物になりました。



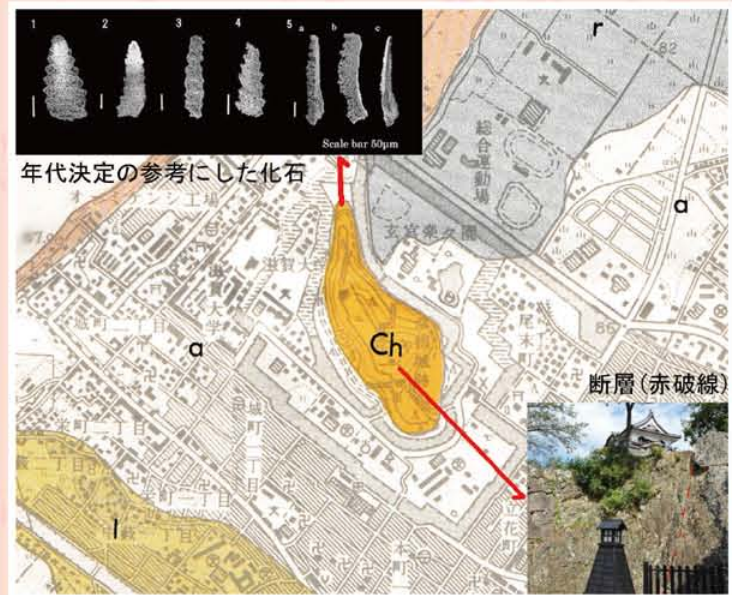
## 彦根城の地形と地質

彦根城がある城山は、びわ湖と東の山々の間の平野の中にぽこりと盛り上がった海拔136m(標高差約50m)の小さな山です。かつての湖中の島が三角州の発達とともに徐々に陸化され、平野中に取り込まれて現在の地形となりました。

城山のほぼ全域は、層状になったチャート等の岩石でできていて、比較的強固な地盤をつくっています。チャートは、放散虫というケイ酸質のからを持った小さな生物の死がい、長い年月をかけて海の底に堆積し岩になったものです。プレートの移動により現在の場所に運ばれてきたと考えられます。

城山の層状チャートの一部からは、放散虫とコノドントの化石が見つかっています。産出した化石は、中生代三畳紀中期(約2億4500万年前)を示すものでした。

また、天守近くの層状チャートの露頭の一部には断層が確認され、その方向は彦根断層とほぼ同じであることがわかっています。玄宮園横にある楽々園には「地震の間」があります。旧内湖のほとりの軟弱地盤であることから、耐震を意識した造りになっています。一方、彦根城天守は強固な岩盤上に建築されていることから、地震に強いと考えられています。



## フィールドマナー(自然観察時のお願い)

- ① 野外活動、無理なく楽しく  
ゆとりを持った計画で、安全に自然に親しみましょう。
- ② 採集はしない、自然はそのままに、文化財を大切に  
動植物の採集、採取をご遠慮ください。とっていいのは写真だけです。
- ③ 静かにそっと  
大きな声や音は立てず、そっとやさしく観察しましょう。
- ④ 危険な動物に注意  
スズメバチ、マムシなどに出くわしたらそっと離れましょう。
- ⑤ ゴミは出さない、すてない  
ゴミは必ず持ち帰る。一人ひとりの心がけで美しい自然を守りましょう。

彦根市キャラクター ひこにゃん



彦根城オニバスプロジェクトの  
マスコットキャラクター  
彦鬼(げんき)くん、美鬼(みき)ちゃん



彦根城とその周辺の自然ウォッチングガイド  
[https://www.city.hikone.lg.jp/kaku-ka/shimin\\_kankyo-/5/2\\_2/9/shiroshizen/index.html](https://www.city.hikone.lg.jp/kaku-ka/shimin_kankyo-/5/2_2/9/shiroshizen/index.html)

### 編集・発行

彦根市、快適環境づくりをすすめる会  
彦根自然観察の会  
令和4年3月発行

## 彦根城の自然と歴史

彦根城がある彦根山は、「活津(イクツ)彦根(ヒコネノ)命(ミコト)」が鎮座した地であり、彦根の名もこれに由来するそうです。築城以前の彦根山には、彦根寺や門甲寺などの寺院がありましたが、彦根城築城にもない城下に移されました。

築城工事は慶長9年(1604年)から始まり、元和8年(1622年)まで約20年をかけて完成しました。築城後の城山は、そのほとんどがアカマツの林におおわれていたといわれています。築城工事により城山は、はげ山に近い状態となったため、城内を見えにくくするように、井伊家2代当主の直孝が全山にアカマツを植樹させました。

築城前の城山は、もともと照葉樹林だったのですが、人の手によってアカマツ林に変わったのです。明治時代以降に自然の回復力によって、もとの照葉樹林にもどったところも見られ、現在は西斜面にシイ、ツクバネガシの林が、東斜面にタブノキの林が広がっています。いざというときの武器や食料などに使うために植えられた植物が残っているのも特徴です。主なものは、クマノミズキ(飲用、火災予防用)、

カクレミノ(血止薬)、クスノキ(樟脳、器具材)、センダン(薬用)、トベラ(牛馬の薬)、イチョウ(食用)、ヤダケ(弓矢)などです。また、当地が基準産地となっているオオイタチシダなど、約50種類のシダ植物が生育しています。

照葉樹林を中心とした自然林には、野鳥や昆虫もたいへん多く、自然の宝庫です。国宝の天守や重要文化財の天秤櫓などの文化遺産と、これらの自然が調和しています。

外堀には、何カ所かにヨシ帯、ハス帯があり、彦根市の天然記念物オニバスもあります。カワセミ、カルガモ、カイツブリなどが一年中見られ、冬にはさらに多くのカモ類が見られます。近年、ミシシippアカミミガメやカムルチーなどの外来生物が息するようになり課題となっています。

彦根城の庭園、玄宮園にも多くの植物が見られ、池にはサイコクヒメコウホネなどの水草があります。

# 彦根城の自然ウォッチングマップ



オオケヤキ

大手門を入ってすぐ右上にある城山で最も古い胸径5mの大木です。



エドヒガン

ソメイヨシノの片方の親。天守で見られソメイヨシノより少し早く咲きます。



イスノキ

彦根城下で製作された湖東焼の釉薬に使われ、産業振興のために植栽されたそうです。



メノマンネングサ

石垣に多く見られ、黄色い星型の花を多数つけます。



アキノタムラソウ

玄宮園で8月末から9月にかけてよく見られます。茎は四角形で花は紫色です。



キツネ

彦根城に住む数少ないほ乳類です。外堀の石垣沿いの犬走りで見つけました。



ニホンカナヘビ

しっぽが長く光沢のない茶色のトカゲのなかまです。草かげや石垣のすき間で見かけます。

城山は植物の宝庫  
平成19年(2007年)の城山植生調査報告書では660種、内訳: 樹木168種、シダ類93種、草本390種ほどが確認されています。城山は植物の宝庫です。



ショウジョウトンボ



- 1 オオケヤキ
- 2 オオトックリイチゴ
- 3 エドヒガン大樹
- 4 化石産地
- 5 オニバス天然記念物指定地
- 6 イスノキ
- 7 オニバス試験地



キンクワハシロ



ハシビロガモ



アオバズク 夏鳥

黄色い目が特徴のフクロウのなかまです。夜行性で夕方にホッポー、ホッポーと鳴きます。



アオバト 留鳥

緑色をしたハトのなかまです。彦根城ではまれに見ることができます。



ヒレンジャク 冬鳥

しっぽの先が赤く、冠羽に特徴がある鳥です。群れで移動し木の実を食べます。



コゲラ 留鳥

白黒のしま模様がある小さなキツツキです。ギイ、ギイと鳴きながら枝から枝へと飛び交います。



エゾビタキ 旅鳥

10月初め頃、見ることができます。目がくりっとした鳥で、お腹のしま模様が特徴です。



カワセミ(メス) 留鳥

光沢のある青い羽根とオレンジ色のお腹を持つかわいい鳥です。水中に飛び込んで魚を捕まえます。



ギンヤンマ

開放的な水辺に生育します。写真はオニバスの葉にとまって産卵中の様子。左がオス、右がメス。



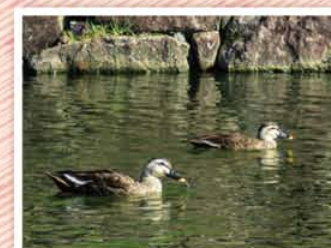
ウチワヤンマ

写真はオス。お堀の周辺でよく見かけます。腹部の下部のうちわ状の形が特徴です。



サギのコロニー

城山の北西斜面には、初夏から夏にかけて数種類のサギが繁殖のため巣を作るコロニーが見られます。



カルガモ 留鳥

一年中見られるカモの仲間です。雄も雌も同じ色で、くちばしの先が黄色いのが特徴です。

◇夏鳥、冬鳥について

夏、南の国から日本にやってくる鳥を「夏鳥」、冬に北の国からやってくる鳥を「冬鳥」、春と秋に日本を通過する鳥を「旅鳥」、一年中日本で見られる鳥を「留鳥」といいます。